

成田  
歴史  
玉手箱



干拓前の長沼  
(昭和16年撮影)

歴史と伝統文化の  
まち・成田。市内に  
は、歴史ある文化財  
が多数あります。

長沼  
干拓史

## 豊住村の男女が総動員された 十日川掘削工事

かつての豊住地区には、長沼という大きな沼があり、コイやフナをはじめナマズ・ドジョウ・川えびなどが獲れ、人々の生計を支えていました。しかし、今は干拓によって姿を消し、広大な田園に変わっています。

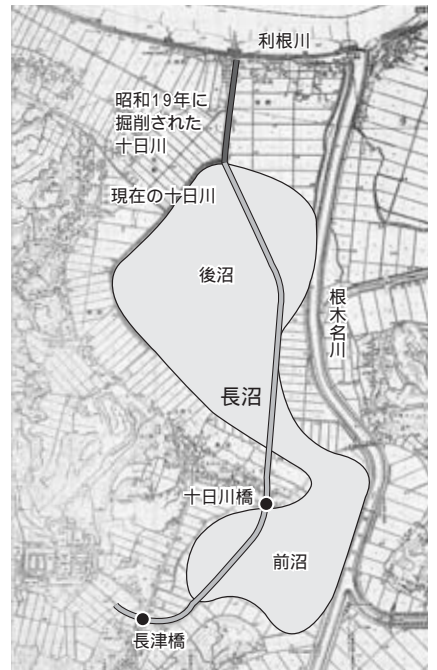
長沼は約250haの瓢箪形をした沼で、成田山側を前沼、利根川側を後沼と呼びました。水深の浅い前沼は昭和9年から11年に干拓が行われ、後沼の干拓は昭和19年からで、まず沼の水を利根川へ流す放水路(約1km)を造ることからでした。

当時の小川長十郎豊住村長は、国が進める食糧増産のための干拓計画と、周辺地域の水害防止を目的として掘削工事を提案し、茨城県内原農業訓練所長の加藤完治氏に訓練生の派遣要請をしました。また、三橋金太郎成田町長には、千人分の布団と食器の調達を依頼するなど各方面に精力的に働きかけました。

鈴木善之助氏の『利根の堤』の中で当

時の様子について「地元奉仕隊千名を募り、豊住村は男女総動員。宿舎は学校と寺院を充て、炊事場と浴場の新設は徹夜で完成させた。ふる桶は10名共同のもの10個をならべて1棟とし、100名10分交代で千名が1時間40分で終了する計画で、ふるの水と炊事用の水は消防団を総動員して近隣の井戸から送水した。炊事所は2斗炊きの釜を30個並べかまどを築かせた。朝6時にラッパで現地集合し、午後7時まで作業し、10時に消灯した。」と書き記されています。

この工事はすべて人力でスコップ・万能と鋤を使って行われ、昭和19年1月10日から20日までで終えたことから、この放水路を「十日川」と呼ぶようになりました。こうして始まった長沼干拓は、前沼後沼合わせて約200haにもなりました。そして、長津橋まで延長され、現在の十日川になったのは、昭和43年ころのことでした。



現在の地図に干拓前の長沼の位置を示した図



豊住村安西地先の十日川底水路工事の様子  
(昭和19年撮影、藤田久寿氏所蔵)

### 編集後記

「市民運動会」で撮影した写真をカメラリポート(4・5ページに掲載)にしてみました。「笑顔」での取材協力、ありがとうございました。さわやかな秋晴れの下、どの顔も輝いて見えます。「掲載できなかった写真もみんなに見てほしい」というカメラマンの意見から、急ぎよ、中央公民館ロビーで写真

展を開催(11月16日~22日)することにしましたので、ぜひご覧ください。写っている人には、モデルをしていただいたお礼として写真を差し上げます。写真を希望する人は、会場にある申込書により、返信用切手80円分を同封して広報課へ郵送してください。